

# スマイルの真髄

上海万博フランス出展局総裁

ジョゼ・フレッシュユ氏インタビュー



ジョゼ・フレッシュユ氏

文◎王 焱氷

冬のある晴れ渡った日、ジョゼ・フレッシュユ氏は上海市中心部にあるオフィスビルの15階の事務所で、新書『中国の笑う門に 世界の福来る』を、上海万博フランス出展局の総裁としての新しいチャレンジを、また人生にある数多くのめぐり合いを、静かに、しかし明確に語ってくれた。

フレッシュユ氏は作家だけではなく、文化使節であり、芸術の実践者でもある。彼の豊かな人生経験は、それ自身が素晴らしい小説のようである。

フレッシュユ氏は1950年の生まれで、子ども時代に『タンタンの冒険旅行』で中国に関する漠然とした印象を得た。タンタンのように冒険心あふれる氏は、早くからサンパウロ、ローマ、リスボンなどでの異国生活を経験する。エクス・マルセイユ第1大学（プロヴァンス大学）で芸術史を専攻したため、中国芸術史にも触れた。20歳で彼は超難関とされるフランス博物館管理人資格試験に挑戦して合格。後にルーブル美術館やギメ東洋美術館の仕事を始め、中国所蔵品の管理を担当した。この間、彼は『絹の女帝』をはじめとする多くの人気小説を発表した。このように氏は静かに優雅に人生を歩み、そして、2010年上海万博フランス出展局の総裁に任命されたのである。

作家、芸術展企画者、芸術史家…。一見して何の関係もない肩書きだが、氏の



ジョゼ・フレーシュ氏と彼の最新著書

運命はいつも中国と関わっているようにも見える。

事務所の窓からは地平線につながる黄浦江の流れが一望できる。これはフレーシュ氏にとってすでに日常的な中国の都市景観だ。もちろん、初めて中国に来たときと比べると、きわめて大きな変化があった。氏は今の中国を「片足を古い伝統に、片足をグローバル化に巧みに踏み入れている」と表現する。

1972年の初めての訪中からフレーシュ氏は頻繁に中国各地を訪ねている。一人

の西洋人にとって、たとえばすでにそれまでの生活のなかで中国の多くを理解していたとしても、やはりこの国は神秘に溢れている謎のようである。

しかし、フレーシュ氏は独自の考え方をもっている。初めて中国を訪れる人はみな、至るところに見られる笑顔と和気あいあいとした人間関係を不思議に思うだろうと語った。始終溢れているこの笑顔に心を打たれないものはいない。この永遠の笑顔は中国人が数千年来求め続けてきた幸福のシンボルであり、中華民族はこの笑

顔で結集したのだと彼は考えた。

中国を愛し、中華民族に深い敬意を持つフレーシュ氏は『中国の笑う門に 世界の福来る』と題する本を書いた。この本の中で、彼は中国文化と芸術、中国の哲学思想、特に道教思想に対する研究を展開した。彼は中国人が心ゆくまで笑えるエネルギーを追求し、また、中国人が笑わなかったら世界に何をもちたらずかを討議しようとした。傍観している西洋人に色めがねを外し、全面的に中国を理解してもらおうと促したのだ。

この本はフランスで出版し大いに成功を収めた。三日で2万冊が売れたのだ。また2008年に中国語版も発行した。

本誌記者はフレーシュ氏と対談し、彼の新書だけでなく上海万博についてもたっぶり話をした。

**中国人の笑顔はチャージングでもあり、わかりにくいものでもあるとおっしゃいましたが、何か独特なことを感じていらっしゃるのですか。**

中国人はより多く笑っていると感じています。礼儀正しく冷たく遠ざけるような笑いではなく、人の心を動かすことができる笑顔です。

**中国文化と何らかの関係があると考えていらっしゃるのですか。**

密接な関係があると言えるでしょう。

笑顔の真髄はすでに中国人の血に溶け込んでいます。このような楽観は社会が絶えずに進歩するためにはなくてはならないエネルギーの源であり、経済発展に欠かせない原動力であります。

**中国で最も印象深いものは何ですか。**

やはり「中国人」でしょう。

**最も大きな願いは何ですか。**

中国人はすでに数千年も笑い続けてきましたが、これからも笑顔をやさずいってほしいと思います。

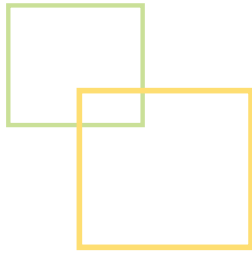
**2010年上海万博フランス出展局の総裁として、中国で行われる今度の万博をどう考えていらっしゃいますか。**

上海万博は盛大なイベントであり、出展局の総裁になって非常に光栄に思っています。上海万博のテーマは世界発展の流れに非常に合っていて、現実的な意味を持っています。中国が現在考えなければならぬ課題として、都市住民の生活、自然環境の保護、教育などがありますが、これはこの地球上のすべての住民が直面している問題でもあります。

**徒歩で事務所に通っているとおっしゃいましたが、都市の中心部を歩いている、どんな感想をお持ちでしょうか。**

上海は中国の激変の証明だといえると思います。上海は世界中で最も美しい都

## Special Interview



市の一つになりつつあります。上海のすべてのことに対し、私はいつも笑みをもって見守っていきたいと思います。永遠の笑顔は幸せのシンボルであるからです。

ご著書のなかで人々に中国を紹介したのと同じように、フランス館も人々にフランスを紹介するひとつの方法だと思えますが、フランス館はどのようにフランス文化を展示しようとしていますか。

上海万博の数多くのパビリオンの中でスターのような存在になってほしいと願っています。われわれのパビリオンはフランスの伝統的なグルメがもたらす味覚、フランス式庭園がもたらす視覚、みずみずしい水の世界がもたらす触覚、香水がもたらす臭覚そして、名画がもたらす聴覚などのエレメントが含まれ、来場者にフランス

の感性と魅力を存分に楽しんでもらえると思います。

「スマイル」には非常に力強いものがあるとお考えですが、フランス館はどのような真に人の心を動かし、幸せをもたらすような要素が注ぎ込まれているのでしょうか。

たくさんあります。たとえばフランス館のイメージ大使のアラン・ドロンさん、マスコットの活発な子猫レオンおよび独特なミュージック・レーベルなどがあり、また、来場者全員には記念グッズが用意されています。ほかはまだ秘密にしておきたいのですが、皆様にサプライズをもたらしたいのです。

**イメージ大使になぜアラン・ドロンさんを選ばれましたか。**

イメージ大使は私が自ら選びました。アラン・ドロンさんは中国での認知度が高く、彼が主演した『ゾロ』は八億の中国人を魅了したからです。彼は数回も中国を訪れ、中国に好印象をもっています。われわれは彼を通してより多くの中国人にフランス館に関心をもっていただきたいと考えています。万博会期中にフランス館は「フランス館チャンネル」を設け、アラン・ドロンさんはその中で彼の中国体験や中国国民との「愛情物語」を語ってくれるのです。



フランス館のイメージ図